

4/27,28 分散による中間登校

早くみんな揃って学校生活を再開できますように

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新学期早々の4月13日から臨時休業に入って2週間。27日の学校再開を楽しみにしていましたが、感染拡大は留まるところを知らず、全国一斉の緊急事態宣言が発令され、さらに5月8日まで臨時休業が延長されることになってしまいました。本当に残念です。1日も早く収束し、学校が再開できることを願うばかりです。27日、28日の2日間は中間登校日とし、3密とならないよう、2,4,6年と1,3,5年の分散登校を行いました。久々に友だちと会うことができ、嬉しかったことでしょう。



校庭の桜も子どもたちを待っていました

保護者の皆様におかれましては、休業中の課題の受け取りや家庭学習の指導等々、ご理解、ご協力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。新学年の学習が滞ってしまわないようにすることも大きな課題ですが、1番心配なのは、「子どもたちの身体と心の健康」です。日本赤十字社では、「新型コロナウイルスが怖いのは、『3つの“感染症”』という顔があることです」と警鐘を鳴らしています。

ウイルスがもたらす第1の“感染症”は、**病気そのもの**です。

このウイルスは、感染者との接触でうつることがわかっています。感染すると、風邪症状や重症化して肺炎を引き起こすことがあります。

ウイルスがもたらす第2の“感染症”は、**不安と恐れ**です。

このウイルスは見えません。ワクチンや薬もまだ開発されていません。わからないことが多いため、私たちは強い**不安や恐れ**を感じ、振り回されてしまうことがあります。それらは私たちの心の中でふくらみ、**気づく力、聴く力・自分を支える力を弱め、瞬く間に人から人へ伝染していきます。**

ウイルスがもたらす第3の“感染症”は、**嫌悪・偏見・差別**です。

不安や恐れは人間の**生き延びようとする本能**を刺激します。そして、ウイルス感染にかかわる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別したりするなど、**人と人との信頼関係や社会のつながりが壊されてしまいます。**

「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」

スライド発行 日本赤十字社新型コロナウイルス感染症対策本部

子どもたちは、口に出さなくとも、「ウイルスが怖くて、外に出られない」「感染したら、どうなっちゃうの?」という病気への不安の他、「どうして休校になっちゃったの」「なんで友だちや先生に会えないのかな」という、納得できない思い、もやもやした不安を胸にため込んでいるかもしれません。それが、「朝、起きられない」「訳もなくイライラする」「塞ぎ込んでしまう」といった心身の不調となって現れることがあります。

また、その不安が、嫌悪や偏見・差別を生んでしまうことも避けなければいけません。大人社会でも、感染で苦しんでいる人を責めたり、命をかけて治療にあたってくださっている医療従事者の方々を差別したりする事案が伝えられていて胸が痛みます。真の敵はウイルスなのに、人を敵視して信頼関係をなくしてしまっただけでは、この闘いに打ち勝つことはできません。子どもたちもそうした負の感情を抱かないようにするために、周囲の大人たちが正しい情報や休校の理由、意味などを伝えることが重要だと指摘されています。「子どもは大人のように情報を取捨選択して集めたり、適切に処理することが難しい。身近な大人が丁寧に説明することで、子どもなりに理解して乗り越えようとしています。子どもの安定には、大人の手助けが必要です」

(セーフ・ザ・チルドレン 担当：赤坂美幸さん AERA 2020/4/27号より)

子どもたちができるだけ正しく理解し、どのように行動していったらよいかを考えられるようにするため、岡山大学と知識流動システム研究所が共同開発した「新型コロナウイルスについていっしょに考えよう」という資料を参考に、この中間登校日の機会に指導することにしました。この他にも「コロナウイルスについて、もっと知りたい人のためのQ&A」の児童版と大人版も作成されており、大変分かりやすく解説されています。ご家庭でもぜひご覧いただき、子どもたちの不安な心を和らげていただけたらと思います。〔岡山大学HP→トピックス〕なお、ご心配の方は、スクールカウンセラーさんへの相談もできます。学校へご連絡ください。

臨時休業中の学習指導について



大幅な臨時休業の延長で、本来学ぶべき内容を、年度当初の教育計画どおりに学習することが難しい状況になってきました。文部科学省からは、以下のような通知がきています。

家庭学習に関する基本的な考え方

新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業等に伴い学校に登校できない児童生徒に対しては、指導計画等を踏まえながら、主な教材である教科書に基づく家庭学習を課することが求められる。

児童生徒の規則正しい生活及び学習習慣の維持、学習の流れのわかりやすい提示等の観点から、例えば、一日の学習のタイムスケジュールや一週間の学習の見通しなどを合わせて示すことで、可能な限り計画性をもった家庭学習を促す。

(一定の要件の下で学校が課した家庭学習の)学習状況及び成果を確認した結果、充分な学習内容の定着が見られ、再度指導する必要がないものと学校長が判断したときには、授業で再度取り扱わないことができる。

(授業で扱わない場合でも、学習内容の定着が不十分な児童生徒がいる場合には、別途個別の補習、追加の家庭学習を適切に課すなどの措置を講ずる)

(令和2年4月10日 新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業等に伴い学校に登校できない児童生徒の学習指導について(通知)より)

これを受け、前の学年の学習の復習だけでなく、新しい学年の内容を自分で学習していく課題を出しています。その際、学年の発達段階に応じ、学び方を示したり、参考となるEテレ等テレビ放送やインターネットサイトを紹介したりして、子どもたちが自ら学ぶことができるための工夫に努めています。

さらに、子どもたちができるだけ学校と同じような規則正しい学習習慣で学べるよう、タイムスケジュールや学習の見通しを示した生活表も用意しました。こうした家庭学習により、前に進む学習をしていくことになります。担任は、巡回訪問指導や中間登校日の際に、学習の成果や定着の様子を確かめ、励ますよう努めます。ただ、毎日学校に通う日々と同じようには参りません。保護者の皆様も、臨時休業中の家庭学習の趣旨をご理解いただき、一緒に一日のスケジュールや学習計画を考えたり、学習成果が上がっているか確認したりして、子どもたちがやる気になる励ましや助言をお願いいたします。

もちろん、学級の友だちや先生と共に学び合うことがベストですが、自ら取り組み、自ら習得していく“自学・自習”の力をつけることは、子どもたちの将来にとって、大変有意義なことです。また、この機会に、「思う存分読書をする」「なわとび、リフティング等々、自分でできる運動に取り組む」「工作や手芸の作品づくりをする」「畑仕事のお手伝いをする」「料理に挑戦する」「Eテレの番組で英会話を学ぶ」等、興味関心のあることにとことん取り組むことができたらいいですね。それが子どもたちの生きる力となり、将来につながっていくことでしょう。



コロナウイルスとの闘いは、長期化するという専門家の声が聞かれています。将来的には学校と学級の友だちをつないでオンライン授業ができれば素晴らしいですが、まずは「担任の声で録音した教材の範読に合わせて音読する」「DVDに録画した指導を受けてワークシートに取り組む」「学校のHPに添付した動画を見て学ぶ」等ができないか検討中です。なんとかできるところから試行してまいりたいと思います。それには、ご家庭の機器の保有状況やインターネット環境の把握が必要となるため、AIDによる調査をさせていただきました。今後はWi-Fi環境等、より詳しい調査も必要となります。ご協力をお願いいたします。